

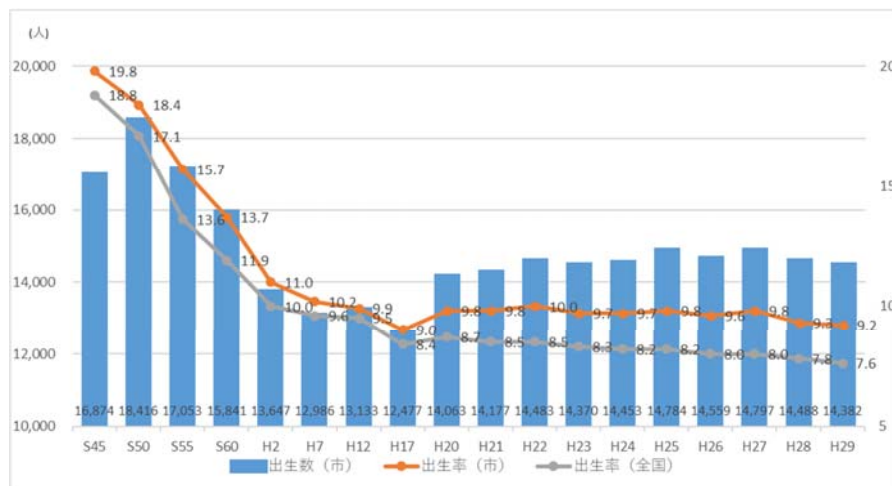
子ども・若者を取り巻く状況について

(1) 少子化の状況

① 出生数と出生率の推移

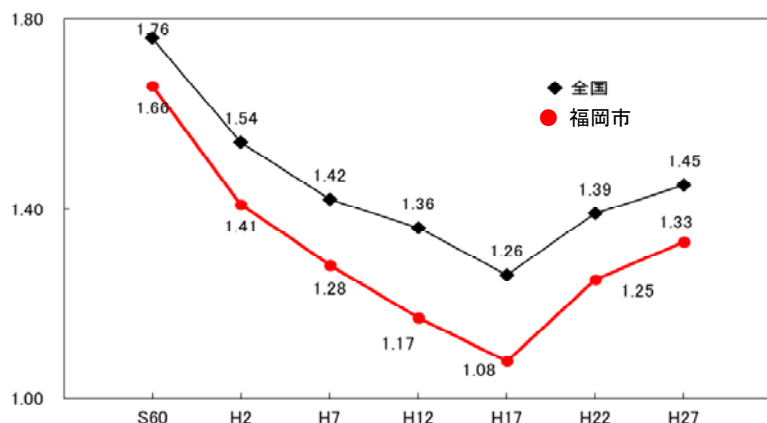
福岡市の出生数は、1990（平成2）年ごろからほぼ13,000人台の横ばいで推移してきましたが、直近の10年間は14,000人台で推移しています。

出生率（人口1,000人あたりの出生数）は全国と比較すると高い状況にあります。



② 福岡市と全国の合計特殊出生率の推移

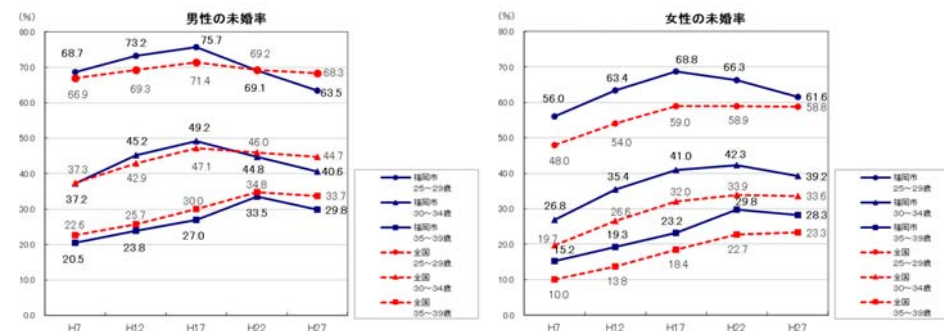
福岡市の合計特殊出生率は、2005（平成17）年以降、上昇傾向にありますが、全国値と比較すると、低い値で推移しています。福岡市は、若い未婚の女性が多いことなどから、合計特殊出生率は低くなっていると考えられます。



③ 福岡市の未婚率の推移

福岡市の未婚率は、男女ともに減少傾向にあります。

なお、女性は、全国平均より高い値となっています。



④ 政令指定都市の若者率

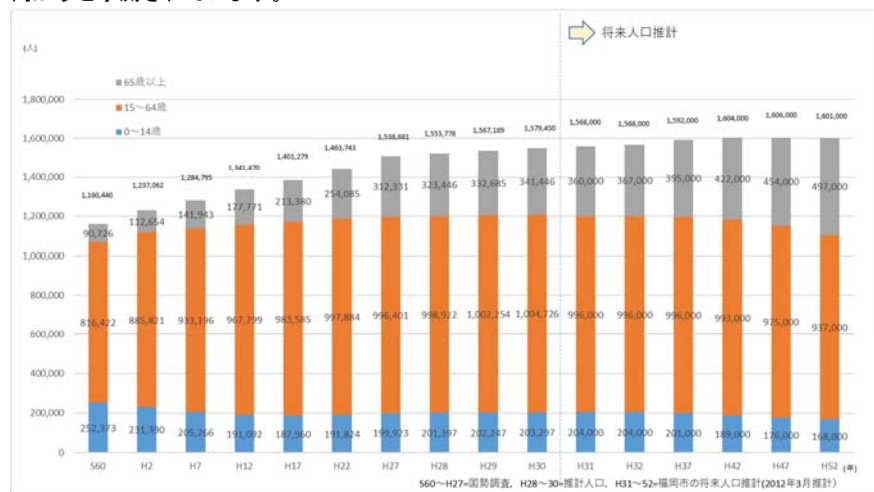
福岡市の若者率（15~29歳の人口÷総人口）は、20政令指定都市中、最も高くなっています。



(2) 人口・世帯の状況

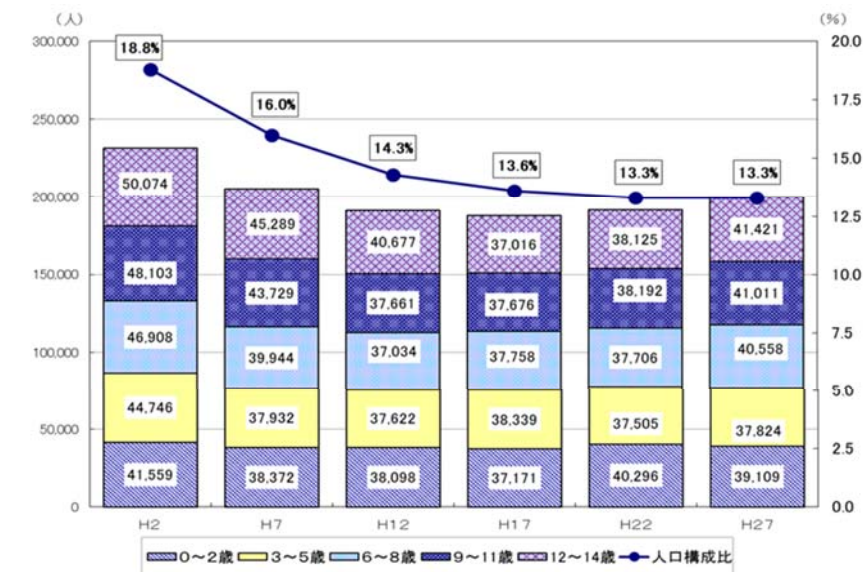
① 福岡市の人口と年齢構成の推移

福岡市の人口は増加傾向にありますが、今後、2035（令和17）年頃をピークに減少に向かうと予測されています。



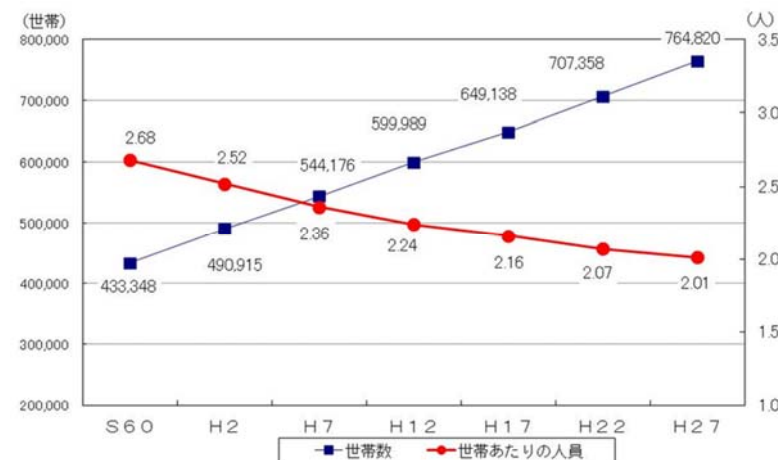
② 福岡市の15歳未満人口内訳と構成率の推移

全人口に占める年少人口（0～14歳）の割合は、2005（平成17）年まで減少の傾向が続き、以降は横ばいとなっています。



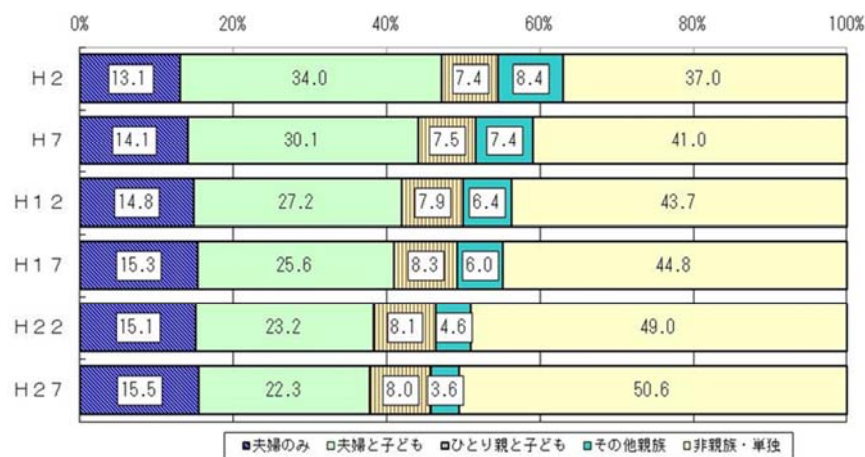
③ 福岡市の世帯数及び一世帯あたりの平均世帯人員の推移

福岡市の世帯数は増加傾向にありますが、一世帯あたりの平均世帯人員は減少傾向となっており、世帯規模の縮小が進んでいます。



④ 福岡市の家族類型別の一般世帯数の割合

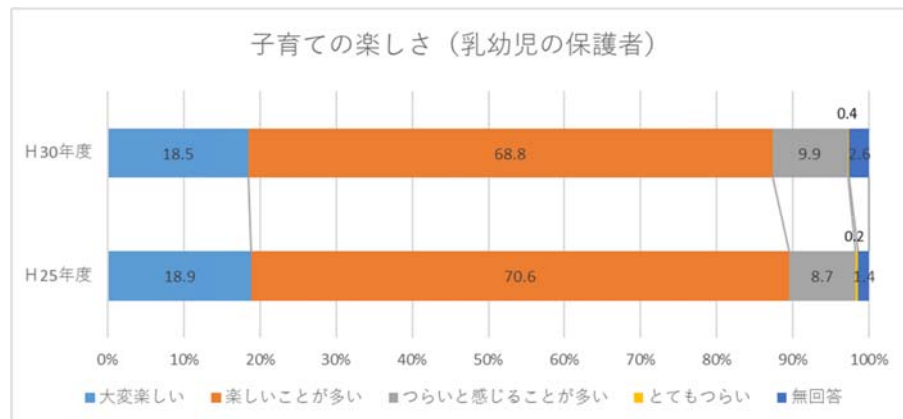
家族類型別の一般世帯数の割合を見ると、夫婦と子ども世帯の割合が減少し、非親族・単独世帯が増加するなど、少人数の世帯の割合が増加しています。



(3) 子育てに関する状況

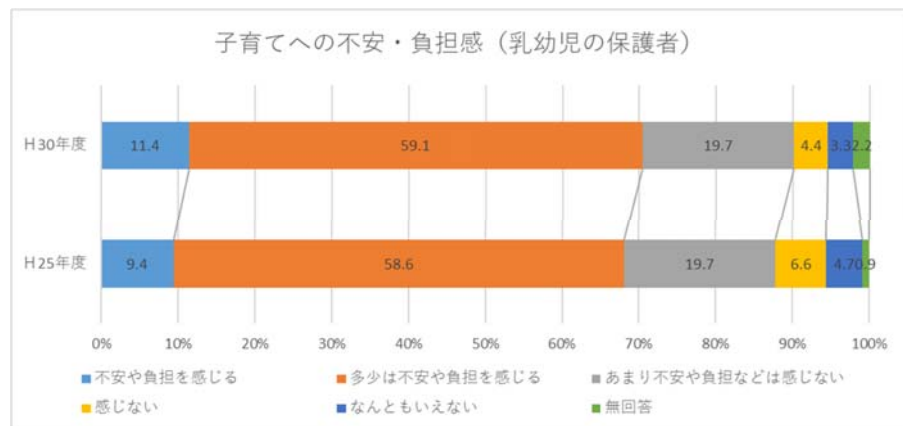
① 子育ての楽しさ（乳幼児の保護者）

子育てを楽しんでいる人（「大変楽しい」と「楽しいことが多い」の合計）は全体の 87.3% となっており、前回調査と比べ 2.2 ポイント減少しています。



② 子育てへの不安・負担感（乳幼児の保護者）

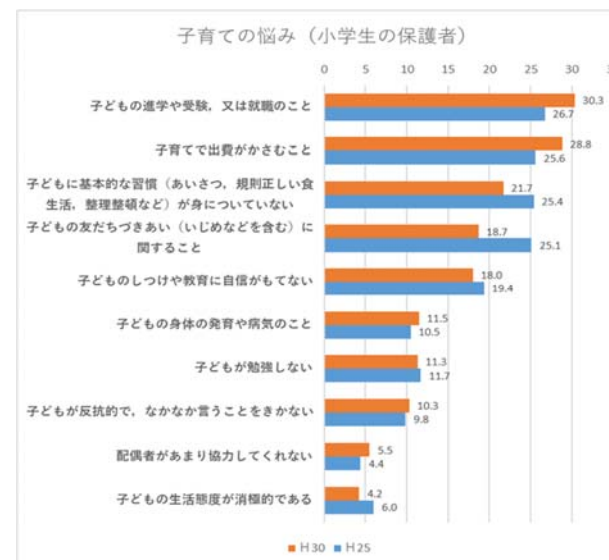
子育てに不安や負担を感じる人（「不安や負担を感じる」と「多少は不安や負担を感じる」の合計）は全体の 70.5% となっており、前回調査と比べ、2.5 ポイント増加しています。



③ 子育ての悩み（乳幼児の保護者・小学生の保護者）

子育ての悩みについては、乳幼児の保護者は「子どものしつけに関すること」の割合が最も高く、次いで「子育てで出費がかさむこと」「子どもを叱りすぎているような気がする」となっています。

また、小学生の保護者は「子どもの進学や受験、又は就職のこと」の割合が最も高く、次いで「子育てで出費がかさむこと」「子どもに基本的な習慣が身についていない」となっています。



④充実してほしい子育て支援（乳幼児の保護者・小学生の保護者）

充実してほしい子育て支援については、乳幼児の保護者は「子育てにかかる費用負担を軽減してほしい」の割合が最も高く、次いで「子連れでも出かけやすく、楽しめるイベントの機会がほしい」「残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしい」となっています。

小学生の保護者は「子育てにかかる費用負担を軽減してほしい」の割合が最も高く、次いで「安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備してほしい」「子連れでも出かけやすく、楽しめるイベントの機会がほしい」となっています。

